

本堂（三仏堂）

この荘厳な建物は輪王寺の本堂で、輪王寺の「阿弥陀如来」「千手観音」「馬頭観音」の主な三仏が祀られています。その三仏とは、本堂内の中心に置かれた三体の大きな金色の仏像のことです。

本堂の右には、慈悲の仏である「千手観音」が鎮座しています。千手観音のそれぞれの手が握る道具は数多の能力を表し、人類が悟りに到達できるよう手助けを行うものです。また、本堂の中央には、無限の光明と人生の仏である「阿弥陀如来」が控えています。そして、左に位置する激怒した表情の仏は、馬頭仏すなわち「馬頭観音」です。

輪王寺の境内には、この三仏が一つのグループとして祀られています。それぞれが異なる名前を持ち、総じて象徴する意味（※訳注 上述の「慈悲」や「力」など）を持つとされています。なお、日光山の3つの山々についても同様に、すなわち「男体山」は「千手観音」、「女峰山」は「阿弥陀如来」、「太郎山」は「馬頭観音」に対応した意味を担うとされています。

この本堂は、848年、天台宗の高僧である慈覚大師・円仁（794-864）によって創建されました。天台宗は、806年中国より日本に伝えられました。天台宗は、日本仏教において巨大で多様な宗派というだけでなくもっとも影響を与えた仏教です。天台宗は、他の宗派の教えを取り入れ、また神道と共に仏教の教えを説いてきました。本堂は、当初は現在東照宮のある場所に置かれました。しかし、その後、長い歴史の中で何度も移転と再建を繰り返すことに。現存している建物は1645年に建てられたものです。

1603年、徳川時代に日本の政治の中枢が江戸（東京）に移された時、権力を握った徳川家は、この新しい首都を、千年の都であり文化の中心地であった京都のレベルにまで引き上げようと考えました。それを象徴するのが、三代将軍・徳川家光が目指した本堂の再建です。彼は「この国で最も大きく、最も壮大な建造物を」と命じましたが、資金不足により、その目的には達することなく終わりました。それでも、この堂は当時東日本一の高さを誇り、今なお京都以東で最も高い木造建築として知られています。